

令和6年度

### 藍住東中学校 「学力向上実行プラン」

#### 学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 生きる力を育む教育の推進
- ・主体的かつ協働的に学ぶことのできる生徒の育成
- ・個に応じた教育の充実
- ・ICTの活用による授業力向上

#### 学力向上検討委員会構成

|         |   |
|---------|---|
| 学力向上推進員 | 委員  |
| 吉本 豊    | 校長:白井幸治 教頭:佐藤健志 谷明美 教務主任:研修主任<br>飯富雅彦 生徒指導主事:北原雄大 人権教育主事:平野忠義 1<br>年主任:森田百合子 1年学力向上担当:前川一光 2年主任:五藤<br>友子 2年学力向上担当:吉本豊 3年主任:大西仁史 3年学力向<br>上担当:森本凌生 |

校長

白井 幸治

#### 【各校の取組状況の把握について】

それぞれの教員が各種研修で学んだことや授業実践での成果など機会をとり共有することで取組み状況の把握を

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

#### (1)知識・技能の習得

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題)   | 具体的目標(目指す子供の姿)  | 具体的方策(教員の取組)   | 中間期の見直し  | 達成状況(評価)   | 次年度における改善事項  |
|--|---|--|--|--|--|
| ○比較的落ち着いて授業に取り組むことができるので、知識、技能についてはある程度の定着が見られる。<br>●学力の二極化が見られる。学習習慣が身につけていない生徒や学習意欲が低い生徒も一定数おり、TT等個別指導の充実が必要である。 | ・各教科で学んだ知識を既習の知識と関連させることができ、各教科間で連動させたり、生活の中で活かしたりできるようにする。<br>・計算力や読解力を確かなものにする。 | ・導入部分でのICTの活用や、机間巡視等の声かけにより生徒が意欲的に学習に取り組めるようにする。<br>・相互授業参観やICTの活用方法の研修など、各種研修の機会を作り、教師の授業力の向上に努める。<br>・発問の工夫により生徒が課題に興味を持てるようにする。 | ・それぞれの教科における知識等の習得をより徹底させる。さらに、身につけた知識等を教科間で連動させる。 | ・各教科でICTを使った授業の工夫が見られ、生徒の意欲を引き出すことができていた。<br>・相互授業参観によりICT活用の方法を知ることができた。<br>・発問の工夫が出来た場面も多かったが、発問が難しいと感じる生徒もいた。 | タブレットのドリル学習等を活用し、繰り返し学習することで学力の定着を図る。また、身につけた知識等を表現するための活動の機会を多く取り入れる。 |

#### (2)思考力・判断力・表現力等の育成

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題)   | 具体的目標(目指す子供の姿)   | 具体的方策(教員の取組)  | 中間期の見直し                               | 達成状況(評価)   | 次年度における改善事項  |
|--|--|---|---------------------------------------|--|--|
| ○友達の意見や教師の話聞き、相手に伝えようとする姿勢は多くの生徒に見られる。<br>○学校で実施している読書週間と朝自習の様子を見てみると、集中して課題や物事に取り組むことができている。<br>●自分の考えや気持ちを表現しようとしているが、自分の言葉で表現することに苦労している生徒が多い。<br>●情報が多くなったり、授業の内容が複雑化したりすると、既習の知識や技能を活用できず、課題の解決につなげられない生徒がいる。 | ・教師の発問や、授業中の課題に対し、生徒たちが意見を出し合い、他者と協力しながら課題解決ができるようになる。<br>・定期テストでは思考力を問う問題(記述式等)に対して無回答を減らし、自分の言葉で考えを書けるようになる。 | ・各教科で班学習やペアワークを取り入れ、グループ内で意見の集約や発表などの役割分担をすることで多くの生徒が考えを言語化できるようにする。<br>・発問の工夫(なぜ、どうして)をする。<br>・グループで考えたことを発表させたり、授業の終わりや定期テストで記述形式を出題したりして思考力等を高めるようにする。 | ・考えを深める発問をする前段階で生徒の理解度を確認し、課題に取り組ませる。 | ・ペアワークやグループワークで意見の集約、発表などはできたが、役割が固定化してしまった。<br>・「なぜ、どうして」を問うことはできたが、答えられないことも多くあった。<br>・定期テストでも記述で表現させる問題を加えることはできたが、無回答も一定数いた。 | 思考力・判断力・表現力を問われたときに、答えようとしていない・答えられない生徒を減らすために、段階的に課題の難易度を上げていくなど小さなステップを設けるようにする。 |

#### (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題)   | 具体的目標(目指す子供の姿)   | 具体的方策(教員の取組)  | 中間期の見直し                          | 達成状況(評価)  | 次年度における改善事項   |
|--|--|---|----------------------------------|---|---|
| ○多くの生徒が授業準備をし、チャイム着席ができている。そして、落ち着いた雰囲気での授業が始め、学習に取り組むことができている。<br>●学習に対し受け身な生徒が多く、自ら課題を見つけ目標を設定し主体的に学習に取り組める生徒は少ない。<br>●難しい問題になったとき自ら解決しようという高い意識を持っている生徒が少なく、あきらめてしまう姿が見られる。 | ・各自で学習の振り返りを行い、課題解決に向けて努力することができるようにする。<br>・難しい課題に対しても既習の知識などを使いながら粘り強く課題に取り組むことができるようにする。 | ・自主学習ノートを活用し、学習についての学習状況を把握し、主体的な学習に取り組むことができるようにする。<br>・テストの振り返りや単元の振り返りなどを実施し、その中で生徒がどの場面でもつまづいているかわかるようにし、生徒への助言をする。 | ・自主学習ノートの例を提示するなど、効果的な使い方を再確認する。 | ・自主学習ノートや家庭学習について、各学級で振り返りをした。<br>・テスト後に振り返りを行うことができたが、単元によってはできないこともあった。 | 各教科において育成を目指す資質・能力の育成を図ることができる授業改善を進めるとともに、テストや単元の振り返りの方法の更なる改善を図る。 |

#### 令和6年度 学力向上ロードマップ

